

堺自然ふれあいの森

ニュースレター 第32号

発行：平成28年3月 ふれあいの森パートナーズ(指定管理者)

イベント報告

●ネザサで門松づくり (平成27年12月26日)

森の整備体験として、刈り取ったネザサでミニ門松を作るイベントを行いました。ネザサを刈り取り、根が地下深くでつながっていることを観察した後、青竹に見立てた太いネザサを、こもに見立てた細いネザサで巻き、土台を作りました。そこに赤い木の実や緑のシダ、ネズミサシなどを差し込むと、華やかで個性的な門松が出来上がりました。



●糸くり体験 (平成28年1月9～11日)

1月9～11日の3日間、カイコのまゆから生糸をひく糸くり体験を行いました。お湯の中でコロコロとまゆが動き、細い糸がはがれていく様子にみんな目を見張っていました。かつては日本の経済を支えた養蚕業。「たくさんのカイコがクワの葉を食べる音がザワザワと聞こえたよ」とお孫さんに自慢げに説明するおばあちゃん・おじいちゃんの姿も見られました。



園路の名称が追加されました

今まで名前がついていなかった園路2ヶ所の名称が決定しました。

① かがみ池のみち

今までは、名前が無く「かがみ池と見晴らし広場をつなぐ道」と呼ばれていました。急な階段道ですが標高が上がるにつれて視界が開け、金剛山や岩湧山が見えるようになります。



② 近みち

里みちと尾根みちをつなぐ道です。秋には、足の踏み場に困るほど、シリブカガシのどんぐりが落ちます。



里山保全ボランティア養成講座 実施報告

今回で9回目を迎えた本講座では、里山の保全や維持管理に関心のある方を対象に、平成27年6月から11月まで月1回講座を実施し、16名の方が受講されました。内容は樹林や農地の整備などの体を動かすものから、大阪府立大学の増田昇教授や平井規央准教授による特別講義まで多岐にわたり、里山保全を多方面から考えるものとなりました。そのため、内容により受講者の方の得手



不得手も見受けられましたが、参加者同士で助け合って解決するなど意欲的に活動する場面が何度も見られました。また、今まで関心が無かった分野が里山の中で担う役割割りについて気付いたり、全6回の講座を通して新たな出会いや、発見の場となったようで、「もっと深く体験したい」という精力的な声が多く聞かれました。また最終回で行った意見交換会では、各講座を担当した講師も集まり、本講座についてはもちろん、修了後の活動について情報交換することができ、受講者・運営者双方にとって実りの多い講座となりました。

平成27年度 森の整備計画活動報告

園内の整備は、森の整備計画に基づいて市民ボランティアと指定管理者が連携して実施しています。毎年11月頃に計画の見直しを行っています。

今年度は、間伐作業とネザサの刈り取りの他、シリブカガシ林整備区でのヤマモモ等の不要中径木の伐採や、ショウジョウバカマの谷みちの一部崩落にともなう新ルートを設置などを行いました。平成28年度はクヌギ育成区(旧お弁当広場含む)の整備や、尾根みちの西側(旧里山保護ゾーン)で尾根みち整備の一環として林床整備に取り組む予定です。



間伐作業

里山風景区1~3、雑木林6にて、常緑樹を中心に間伐作業を行いました。今まで常緑樹が多く、1年中薄暗い林内でしたが、作業後は地面まで日が当たるようになり、今後多様な下層植生が出現することが期待出来ます。伐採した木はエリア内にまとめて置いているので、こちらもしばらくすると、多種多様な生きものの住処となる予定です。



伐採中の様子



整備後の里山風景区3

ネザサ刈り

ネザサ刈り取り試験区とチガヤ草原で、人の背丈以上に生育したネザサの刈り取りを行いました。チガヤ草原は、この後何度かネザサの刈り取りを行った後、チガヤを移植する予定です。今までは鬱蒼として立ち入ることも出来ませんでしたが、今後、色んな草花が生え、生きものが集う場所になることが期待されます。



作業中の様子



整備後のネザサ刈り取り試験区

ふれあいの森の活動風景② 「調査研究活動」

ふれあいの森に生息する生きものを調査し、森の整備や環境保護に役立てるのが調査研究活動。その活動の様子を取材してきました!



<1月 冬の生きもの調査+西ゾーンの整備>

活発に動き回る生きもの少ないこの時期、じつと寒さに耐えて冬越し中の生きものを調査しました。しんと静まり返った広場や散策路を歩きながら、朽ち木の下や葉の裏、木の肌や根元などをくまなく調べていくと、「何かいた!」「こっちにも!」と次々声が上がりました。そこにいたのは、大きさ1~2mm程度のチョウのタマゴやハチのサナギ。何気なく歩いていたら見過ごしてしまいそうな小さな生きものも、ルーペを片手に観察し、写真を撮って種名を調べていきます。時には、どれだけ



▲生きもの調査

図鑑をめくって調べても分からずに悩む事もありますが、生きものを発見する事、そして調べて知る事の楽しさが、活動の原動力となっているようです。

また、午後からの活動では、今まで手つかずの状態であった「西(旧保護)ゾーン」を活用していくための調査と、高木を伐採するための下準備として小低木の伐採を行い、生きものたちの息吹を感じながら活動を終わりました。



▲西ゾーンでの調査と伐採



活動プロフィール
活動日: 毎月第2・第4火曜日
人数: 20名

活動の世話役さんにインタビュー!

Q. 活動の目的(担役割)は?

A. 生きもの調査を通じて生物多様性に配慮した適切な森の管理を提案すること

Q. 一番やりがいのある作業(仕事)は?

A. 希少な生きものが生息・生育する環境を保全・回復させること



いっちゃんクラブ (前世話役) 小松さん 西島さん

Q. 活動はどんな雰囲気?

A. 「楽しく学びながらデータを集める」をモットーに活動しています

Q. みなさんに一言メッセージをどうぞ!

A. 活動のたびに新しい発見があります。初心者の方も気軽にご参加ください。

実施イベント報告 森の手入れでいい汗かこう

はらっぱ広場を、様々な生きものが観察できる広場にするために整備しています。



落ち葉掻きと堆肥場作りを実施しました。カブトムシが来てくれることを期待しています。



広場を覆うネザサを刈り取りました。広場がスッキリしました。



1年を通して様々な管理活動を市民の方と一緒にしました。

全6回イベントを行い、のべ51名の方に参加していただきました。

平成28年度は昆虫の食べ物となる植物の移植や、新しく「昆虫の森(旧コケラン広場周辺)」の整備がスタートします。今後も市民の方と共に、ふれあいの森を発展させていきます。



広場を明るくするために、アラカシの木を伐採しました。



雨が降っても水浸しにならないように、広場の周りに溝を掘りました。

ふれあいの森を活用した 保育園の活動事例報告

堺市教育委員会から主催の幼児教育実践発表会(H28.3.5開催)において、深井保育園(堺市中区)が当施設と園での活動を連動させた取り組みについて発表されました。

深井保育園の受入れは、この4月で6年目を迎えます。近年は年長さん(5才児)が年間6~7回来園し、季節に応じた生きものとのふれあいや川の観察、茶摘みや草木染めなどの里山文化を学ぶ体験をしています。複数回来園する利点を活かすため、毎年観察テーマを設定し、継続観察することで生きもの季節変化や、他の生きものとの繋がりに気づけるようなプログラムを実施しています。各プログラムは、保育士の方々と相談しながら、普段小学生に提供している内容を園児向けに構成し直しています。「保育所保育指針」から「小学校学習指導要領」への学びの連続性を

平成27年度の実施内容

※主テーマは【コナラの木の観察を通して生きもの同士の繋がりを学ぶ】

実施月	主テーマの観察内容	プログラムタイトル	実施内容
4月	芽生え	春の芽生えを見てみよう	①園内散策 ②草花の観察 ③万華鏡作り
5月	つばみ	川のはじまりってどんなところ?	①源流観察 ②アゲハチョウの観察 ③葉っぱの叩き染め
7月	花	虫さんコンニチハ	①昆虫観察 ②茶摘みと茶採み体験
9月	ドングリの赤ちゃん	目をすまして、秋の虫をさがそう	①クモの観察 ②(雨天のため)クズの曼遊び
10月	ドングリ	草やタネであそぼ	③セイタカアワダチソウの草木染
11月	ドングリ虫	葉っぱの下をのぞいてみよう	①園内散策 ②こも巻き体験
2月	どんぐりの根っこ	春を探しにいこう	①落ち葉掻き、たき火 ②土壌生物の観察 ③こもを外して冬越し生きもの観察



葉っぱの叩き染め



草木染め



冬越し生きもの観察



落ち葉掻き

考慮し、小学校の学習にスムーズに移行できるように配慮しました。

また、この取り組みは、この森を利用して終わるのではなく、森で体験したことを園にある素材で試したり、年下の子ども達に教える機会を作るなど、活動を継続させ、その中で新たな発見や体験が出来るように、保育士の方々が工夫されています。そのため、毎年3月に双方が集まり、振り返りと翌年の活動内容について打合せを行っています。その際には園庭の環境を観察し、園で実践出来るプログラムについて提案させていただくこともあります。

平成27年度に当施設を利用した、幼稚園・保育園の数は28園。その内2回以上来園したのは3園です。年1回来園だと、散策して見つけた生きものを観察するだけになりますが、春と秋に来園すると、季節の変化を感じることが出来ます。1年間に複数回来園する施設についても、より自然にふれあい、楽しんでいただける工夫を、今後も続けて行きたいと思っています。

第7回小さいとこサミット実施報告

- 開催日時：平成28年1月18日（月）10:00～17:00
- 開催場所：堺自然ふれあいの森
- 参加者数：73名（36施設、48団体、当施設職員4名含む）

※東は千葉県、西は鹿児島県まで計13都府県からお越しいただきました。



イラスト：西澤真樹子

スケジュール

- 10:00～12:00 ワークショップ
①園内散策 ②落ち葉掻きとたき火体験
- 13:00～14:50 小さいとこサミット
■基調講演 増田昇氏（大阪府立大学教授）
■話題提供
①技術をつなぐ 井内由美氏（姫路市自然観察の森）
②文化をつなぐ 垣内敬造氏（篠山チルドレンミュージアム）
③人をつなぐ 伊藤良枝氏（千葉市科学館）
- 14:50～15:30 ポスター発表時間、ミュージアムショップ開店
- 15:30～16:30 参加者交流（みんなで「つなぐ」を考えよう）
- 16:30～17:00 総評、終了

「小さいとこサミット」のテーマは毎回開催館が決めますが、私たちが選んだテーマは「〇〇をつなぐ」です。

当施設ではボランティアさんが指定管理者と共に森の整備やイベントを運営していますが、高齢化が悩みとなっています。

「若い人に参加してもらうためには」「今持つ技術を次の世代に引き継ぐには」など、日頃抱えている問題の解決の糸口を探すため、参加者と情報交換を行いました。

サミットでは、当施設のアドバイザーを務める増田先生より、この森の管理運営に関するお話をしていただきました。その後、今回のテーマに即した実践例や情報をお持ちの3施設の職員の方から話を伺いました。また、参加者交流では、前半の話題提供の内容を踏まえて情報交換を行いました。歴史系や美術系、図書館など分野が異なる施設も多かったですが、参考となる事例も多く得ることが出来ました。これからの新たな展開に今からワクワクしています。



園内散策



落ち葉掻きとたき火体験



会場の様子



参加者交流



ポスター発表



ミュージアムショップ



地元の食材を使ったお弁当

サミット開催中、参加者が施設紹介を行う「ポスター発表」や各施設のオリジナルグッズの制作情報を紹介する「ミュージアムショップ」も開催しました。各施設の「とっておき」を紹介するだけあり、どれも勉強になりました。また、地域連携の一つとして、いつも遊びにきてくださる地域の福祉施設の方に、地元で生産された食材を取り入れたお弁当を作ってもらい、食の視点から地域をPRすることができました。

小さいとこサミットとは…

自然系や人文系など、様々な分野を対象としたミュージアムが各地にあり日々活動しています。それらの多くは、職員が数名という小規模な施設であり、1つの施設だけでは力が小さいのが現状です。そこで、「小規模ミュージアム＝小さいとこ」に関わっている人や応援したい人が集まって、「小さいとこ」の魅力を発信し、それぞれの交流や情報交換、支援など、小さいからこそみんなで集まって協力しよう！というのが、この小規模ミュージアムネットワーク（＝小さいとこネット）です。その交流活動として、年1回「小さいとこサミット」を開催しています。

●●●●●●●● お問い合わせ ●●●●●●●●

堺自然ふれあいの森 森の館

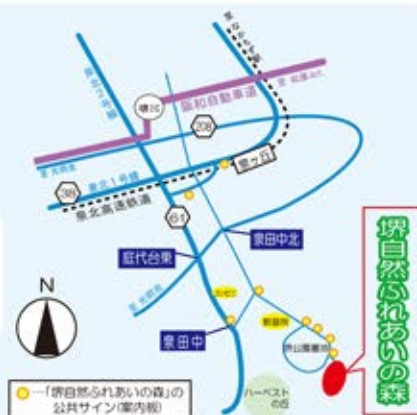
〒590-0124 大阪府堺市南区畑1740番地
TEL 072-290-0800 FAX 072-290-0811
ホームページ <http://www.sakai-fureainomori.jp>



発行：堺自然ふれあいの森 ふれあいの森パートナーズ（指定管理者）
※ふれあいの森パートナーズは、株式会社生態計画研究所とNPO法人いっちゃんクラブの連合体です。

交通案内

お車の場合は「堺公園墓地」を目指してお越し下さい。



堺自然ふれあいの森